

I 調査の概要

1. 調査の方法と内容

各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各都道府県私立学校担当部署に、所管する高等学校の海外修学旅行並びに修学旅行以外の海外研修の実施状況等について調査を依頼し、以下のとおりまとめた。

なお、東京都・福岡県の私立及び兵庫県の公私立の実施状況については本協会の独自調査による。愛知県の私立学校に関しては、愛知県私立中学高等学校協会の協力を得た。

- (1) 調査の期日 2020(令和2)年5月1日現在
- (2) 調査対象 各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各都道府県私立学校所管部署
- (3) 調査内容
 - イ. 2019(平成31・令和元)年度海外修学旅行の実施校数、参加生徒数、実施時期、日数、旅行費用、訪問国
 - ロ. 2019(平成31・令和元)年度海外研修の実施校数、参加生徒数、実施時期、日数、旅行費用、研修先国、研修内容
 - ハ. 2019(平成31・令和元)年度国内航空機利用修学旅行の実施状況
 - ニ. 2019(平成31・令和元)年度国内修学旅行方面別実施状況
 - ホ. 2019(平成31・令和元)年度訪日教育旅行受入状況
 - ヘ. 2020(令和2)年度修学旅行の実施基準

2. 集計及び区分け等

- データは各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各道府県私立学校所管部署からのデータを集計し、一部本協会の調査データを加えた。
- 海外修学旅行・海外研修とも都道府県の実施校数・参加生徒数は出国数をベースとし、クラス別・班別及び課程別での実施を件数表示とした。また複数方面にまたがる場合、国別集計では延べ数でカウントした。
- 訪問国は、旅行という観点から大陸区分によったが、グアム・サイパン島は北アメリカに、パラオ・マーシャル諸島はオセアニアに区分した。
- 海外研修は学校が主催する3ヶ月未満の語学研修、ホームステイ、教科の特性を生かした実習・研修、姉妹校交流等をまとめ、研修内容の区分は本協会独自の仕訳によった。
- 国内方面別実施状況は、クラス別・班別及び課程別での実施や複数方面にまたがる場合も1校として集計のため、設置校数・生徒数と一致しない。
中学校は県によってデータ把握が困難なため、参考数値として集計した。
- 訪日教育旅行受入状況については、一部地域を除き、各都道府県教育委員会で把握されているものを掲載した。

3. 2019(平成31・令和元)年度全国高等学校の概要

- 学校数は4,887校(本校4,800校、分校87校)で、前年度より10校減少(本校9減、分校1減)している。
 - ・ 公立の学校数は3,550校で、前年度より9校減少(本校8減、分校1減)している。
 - ・ 国立の学校数は15校で、前年度と同数である。
 - ・ 私立の学校数は1,322校で、前年度より1校減少している。
 生徒数は約317万人で前年度より約6万7千人減少している。(中等教育学校を含むと約320万人)
- 中等教育学校数は54校(国立4校、公立32校、私立18校)で、1校増加した。
- 修学旅行対象学年(全日制2年、定時制3年、専科、別科、中等教育後期課程)の生徒数は、約105万5千人で前年度より約2万8千人減少している。

(資料：令和元年度文部科学省学校基本調査)

II 調査結果の概要

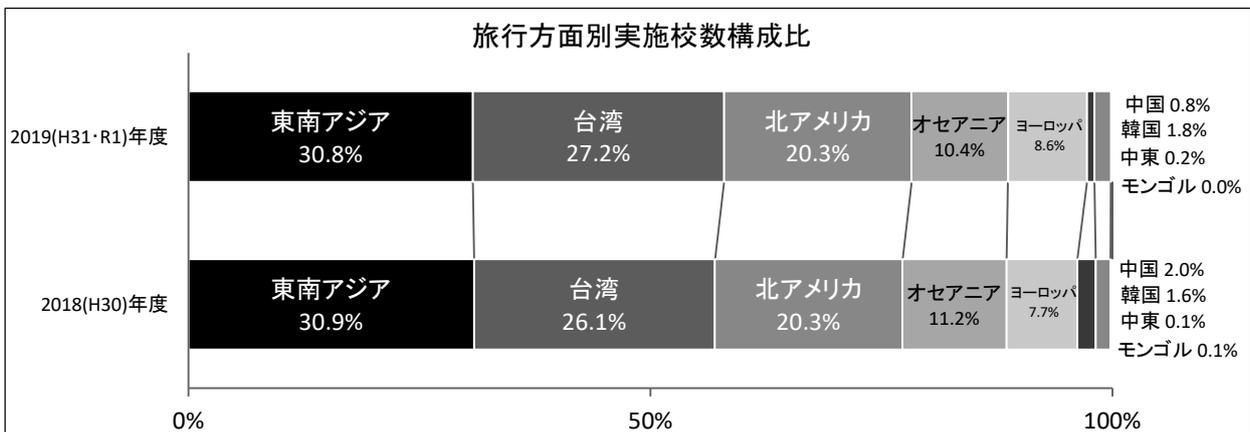
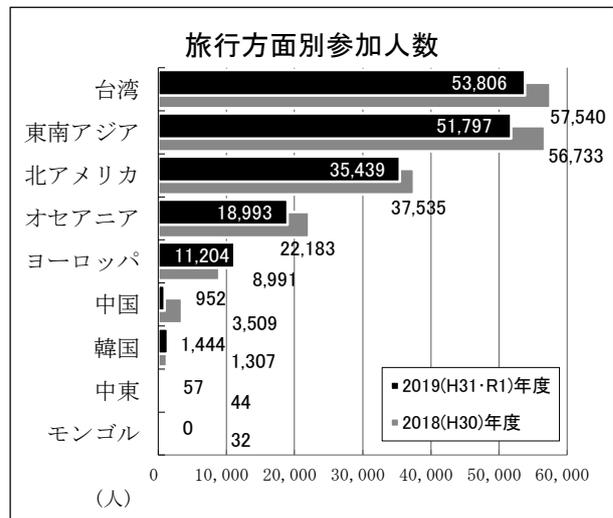
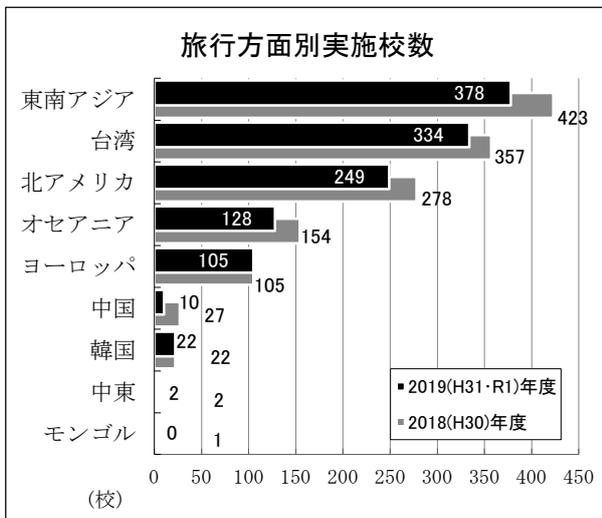
1. 2019 (平成31・令和元) 年度 海外修学旅行の実施状況

(1) 全国の動向

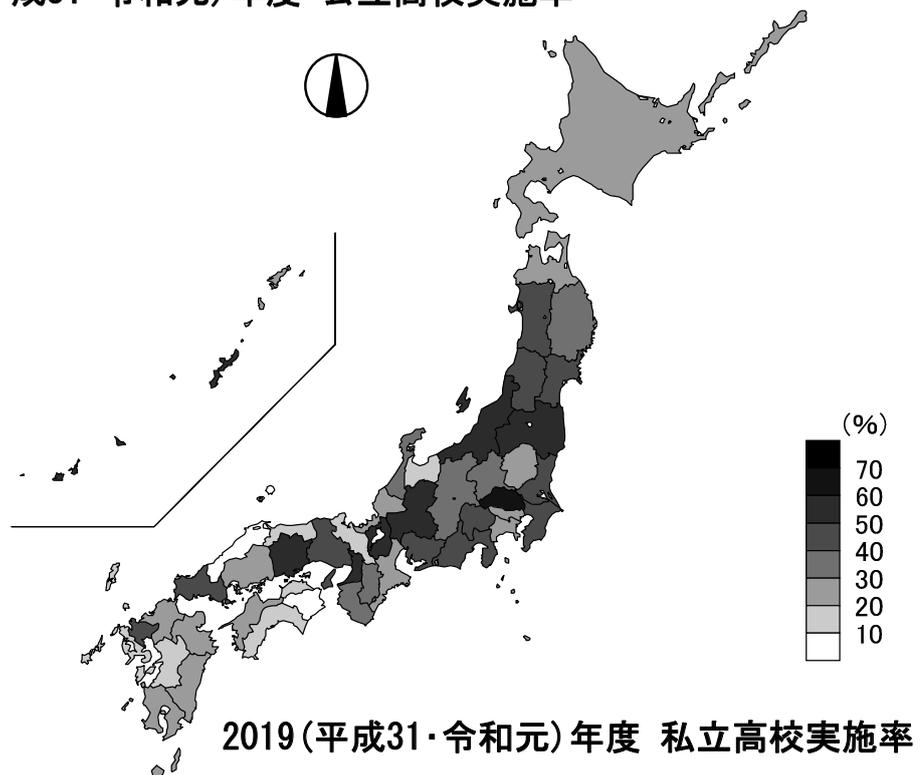
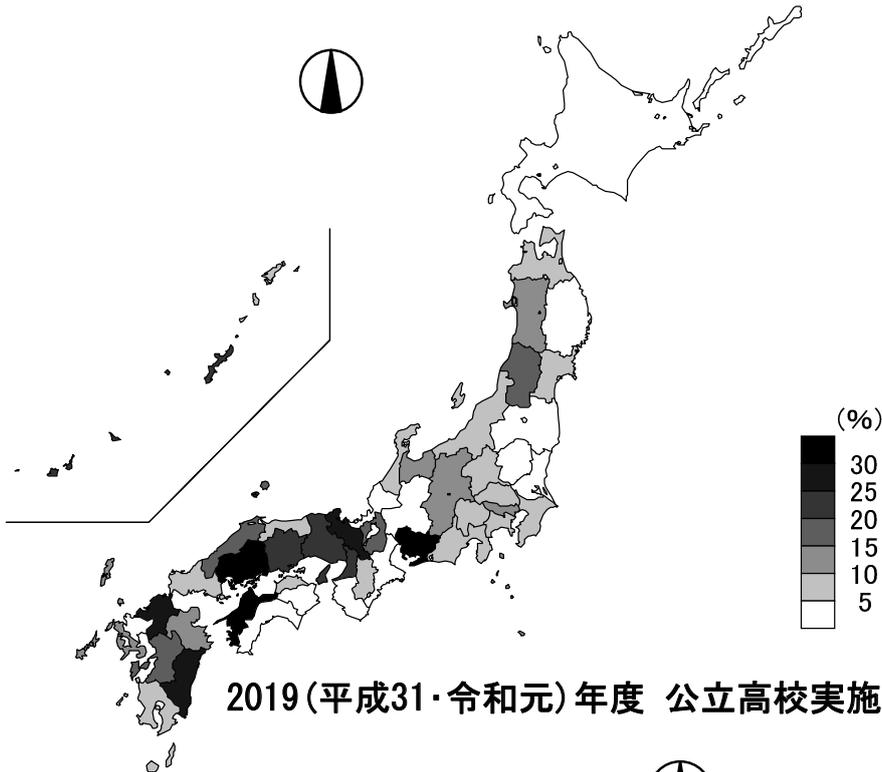
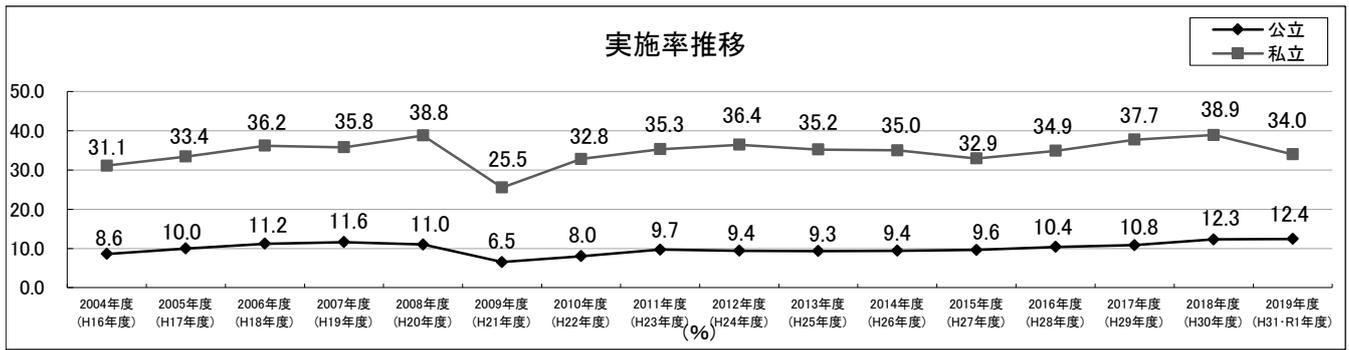
- 2019年度は、11月末に中華人民共和国湖北省武漢市で初めて確認された「原因不明のウイルス性肺炎 (新型コロナウイルス)」の感染拡大が、世界的流行 (パンデミック) となり、海外への教育旅行の実施に大きな影響を及ぼす年となった。そして、その状況は現在も続いている。
グローバル化に対応する人材育成カリキュラムである「国際理解教育」に取り組む学校の増加傾向により3年連続で、実施校数、旅行件数、参加生徒数全て前年度を上回っていた海外修学旅行だが、本年度は、全国で898校 (公立443校、私立455校) の実施となり、前年度から64校13,346人の減少となった。海外旅行の渡航規制はもちろんだが、「安心安全の確保」が大前提の修学旅行において、今年度、海外への渡航は断念せざるを得ず、修学旅行の延期・中止、旅行方面の変更 (国内) という選択をした学校も少なくない。
- 旅行先 (延べ数) では、34ヶ国・地域に1,228校173,692人が訪問。(対前年: ▲141校▲14,182人) 訪問国の上位に変わりはなく、台湾の334校53,806人が最も多く、6年連続訪問国第1位であり、シンガポール (191校27,385人)、オーストラリア (108校16,059人)、マレーシア (109校14,740人) と続く。当然、殆どの国で全体数が前年度を割る結果となったが、一部の国 (イギリス、ニュージーランド、グアム) では増加が見られた。特にイギリスは、24校4,086人と過去5年で最も多い。

① 年度別実施状況

区分	計			公立			私立		
	実施校数	旅行件数	参加生徒数	実施校数	旅行件数	参加生徒数	実施校数	旅行件数	参加生徒数
2017(平成29)年度	895	1,208	156,413	390	419	67,576	505	789	88,837
2018(平成30)年度	962	1,264	168,881	440	472	75,052	522	792	93,829
2019(平成31・令和元)年度	898	1,146	155,535	443	479	73,307	455	667	82,228



※グラフは延べ数を基に作成。



② 公私立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域

国・地域	年度	2017(平成29)年度			2018(平成30)年度			2019(平成31・令和元)年度		
		都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数
台湾		43	325	53,940	43	357	57,540	43	334	53,806
シンガポール		40	184	25,421	40	202	28,295	40	191	27,385
オーストラリア		34	150	21,305	35	126	19,430	29	108	16,059
マレーシア		32	113	15,850	32	123	17,143	33	109	14,740
ハワイ		31	95	13,131	32	93	12,531	29	76	11,955
グアム		9	19	3,005	17	58	8,614	19	57	7,982
カナダ		25	74	8,999	24	53	7,904	22	50	7,975
アメリカ本土		27	84	8,843	26	73	8,388	24	66	7,527
ベトナム		19	43	5,988	17	47	6,717	16	41	6,126
イギリス		10	16	1,536	11	18	2,818	14	24	4,086

②-1 公立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域

国・地域	年度	2017(平成29)年度			2018(平成30)年度			2019(平成31・令和元)年度		
		都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数
台湾		37	216	40,538	37	233	42,089	36	235	41,350
シンガポール		28	80	10,874	25	84	11,869	28	93	12,905
マレーシア		23	59	7,975	20	60	9,163	23	62	8,665
グアム		6	10	2,171	9	26	5,095	11	25	4,277
ベトナム		7	14	3,273	7	18	4,130	7	19	3,916
オーストラリア		13	23	2,794	14	27	2,867	12	24	3,161
ハワイ		9	18	2,846	10	18	2,864	8	17	2,776
韓国		5	5	556	5	5	378	8	10	774
カナダ		8	9	876	7	7	602	7	7	768
アメリカ本土		9	16	814	9	15	731	10	14	718

②-2 私立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域

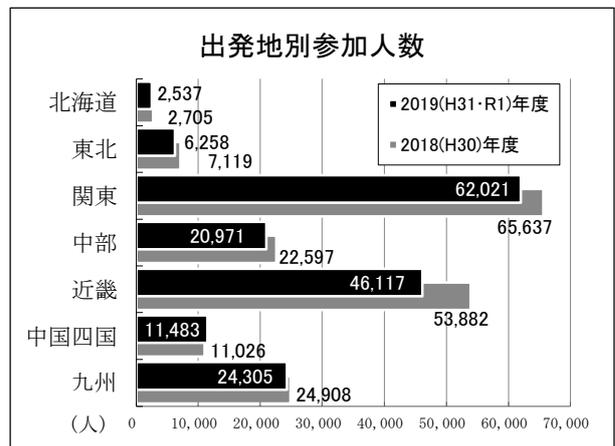
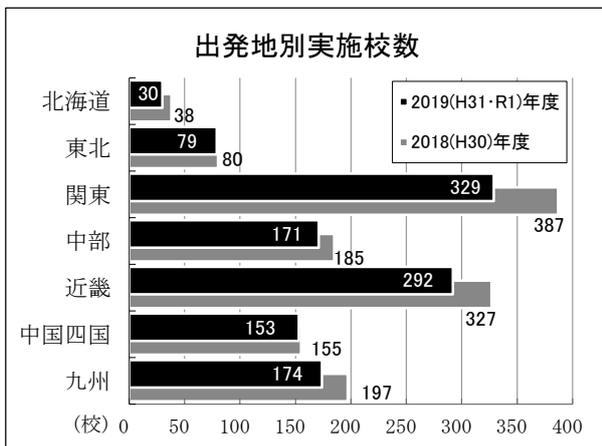
国・地域	年度	2017(平成29)年度			2018(平成30)年度			2019(平成31・令和元)年度		
		都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数
シンガポール		32	104	14,547	33	118	16,426	32	98	14,480
オーストラリア		29	127	18,511	28	99	16,563	26	84	12,898
台湾		37	109	13,402	37	124	15,451	34	99	12,456
ハワイ		30	77	10,285	30	75	9,667	26	59	9,179
カナダ		21	65	8,123	21	46	7,302	18	43	7,207
アメリカ本土		25	68	8,029	23	58	7,657	21	52	6,809
マレーシア		24	54	7,875	28	63	7,980	25	47	6,075
イギリス		10	15	1,496	11	17	2,780	14	23	4,044
グアム		7	9	834	14	32	3,519	15	32	3,705
ニュージーランド		9	23	3,304	11	22	2,327	8	15	2,425

(2) 都道府県別の動向

出発地別では、実施校数は、全ての地域で前年を下回った。参加人数でも、中国四国の微増以外は、減少。特に、私立校の減少が大きく影響している。

都道府県別では、12府県で増、30都道府県が減少。

(公立：18都県で増加、13道府県で減少。私立：9府県で増加、33都道府県で減少。)※P18~20参照

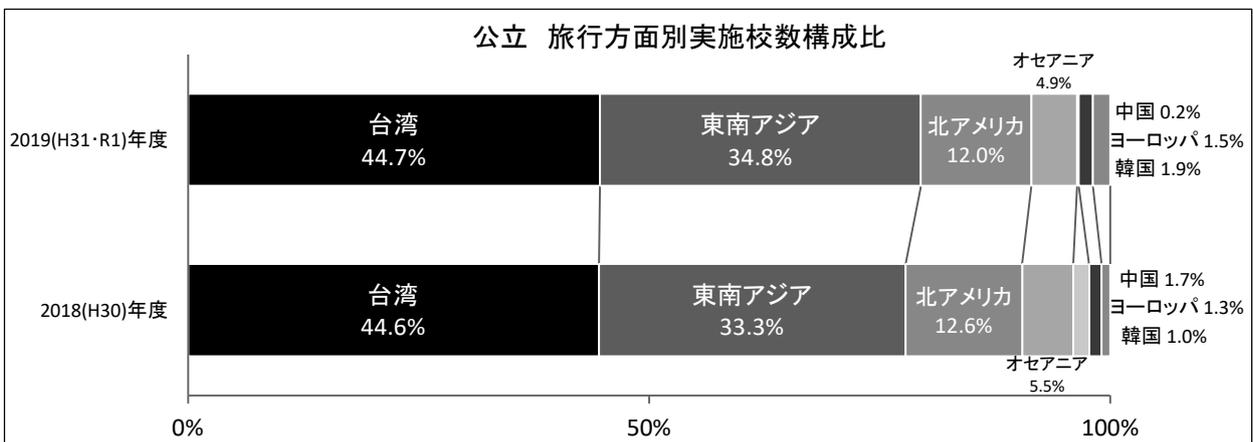
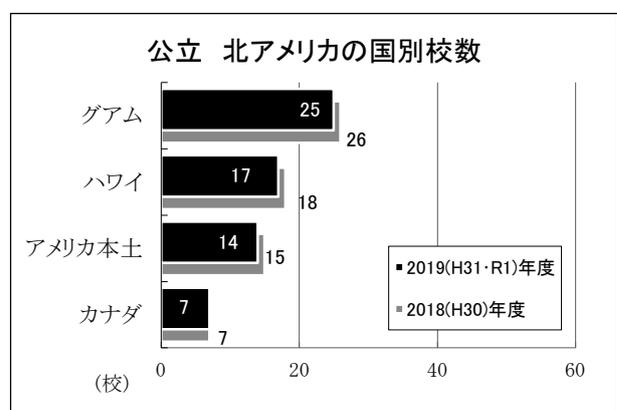
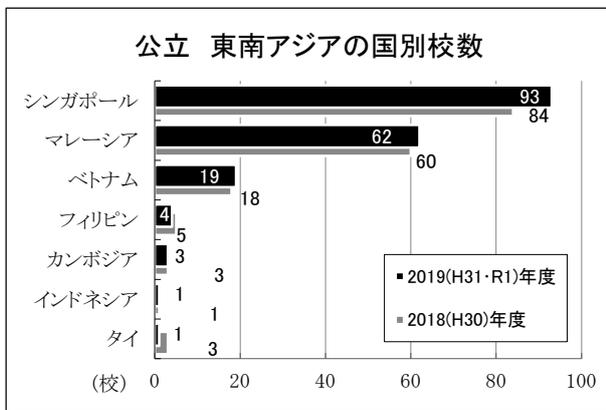
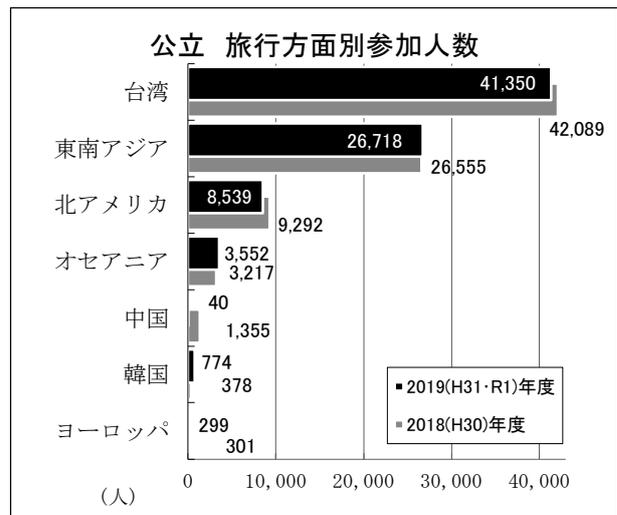
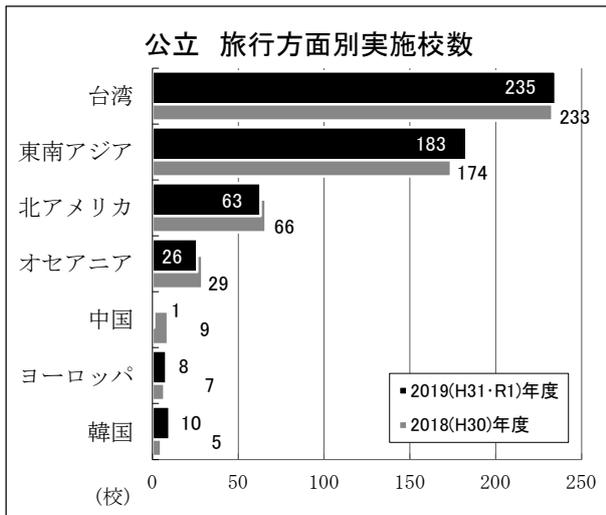


※グラフは延べ数を基に作成。

(3) 公私立別の状況

① 公立高等学校

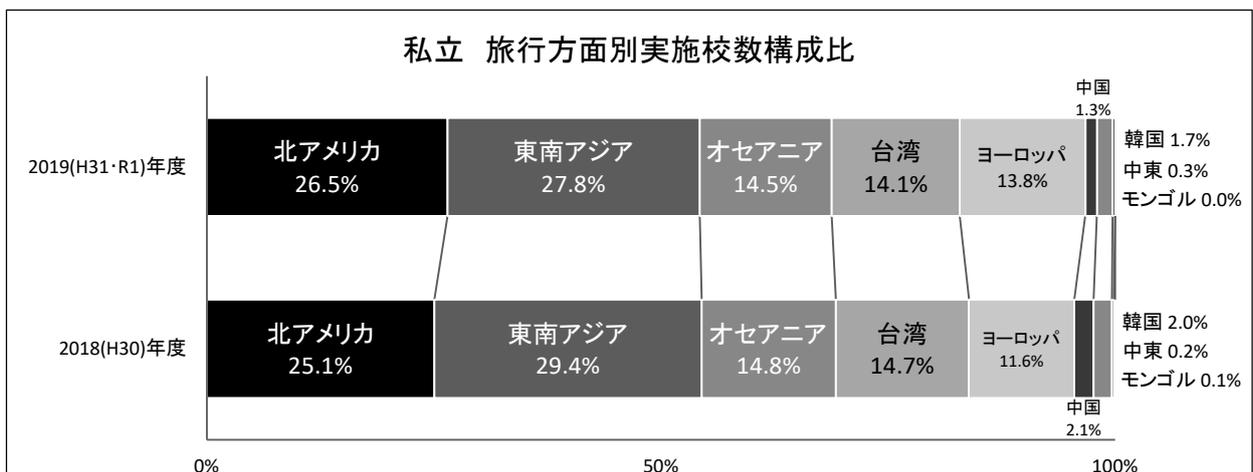
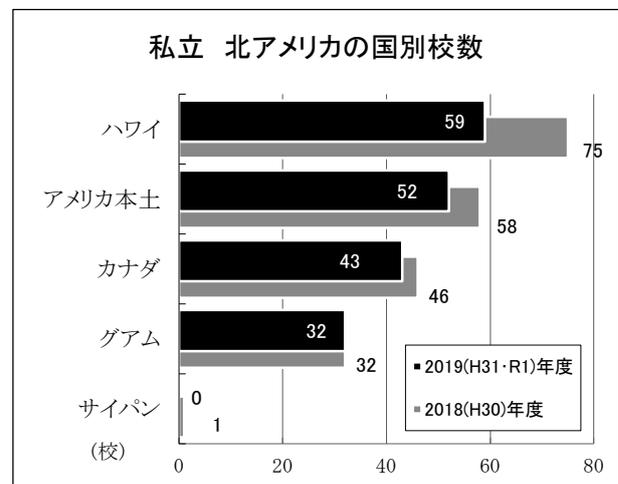
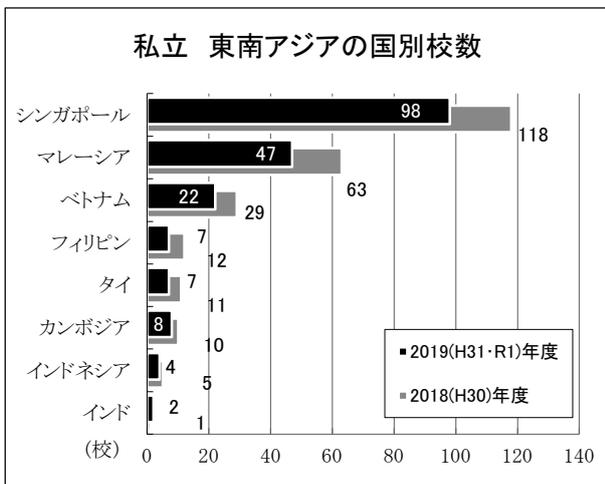
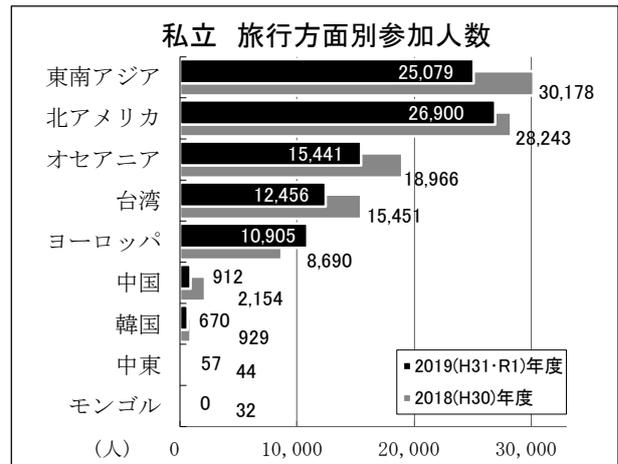
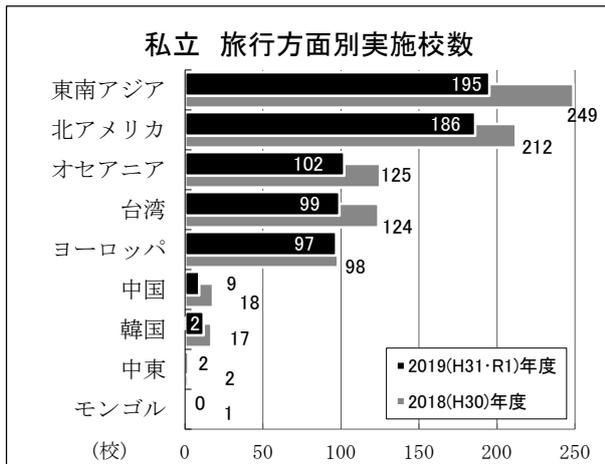
- 実施校は、443校が実施し73,307人が参加した。旅行実施件数は479件であった。参加人数は、1,745人前年より減少したが、実施校数、実施件数は、共に前年を上回った。公立高校の修学旅行の主な実施時期は、10月～12月であり、新型コロナウイルスの本格的な感染拡大が始まる前に大半の学校が修学旅行を終えていた為、大きな影響を受けずに済んだものと推察される。
- 旅行先(延べ数)では、20ヶ国・地域に526校81,272人が訪問した。
前年度から増加した国は、シンガポール、韓国、オーストラリア。シンガポールは、9校1,036人増え、韓国は、校数、人数共に倍増の、10校774人であった。
他の国も、微増減で、昨年度並みの数値であったが、中国だけは、大きく前年度を割り込んだ。
(平成30年度：9校1,355人→今年度：1校40人)



※グラフは延べ数を基に作成。

② 私立高等学校

- 実施校数は455校、82,228人が参加した。旅行実施件数は667件であり、前年度から校数で67校、件数で125件、参加生徒数で11,601人の減少となった。
- 旅行先(延べ数)では、34ヶ国・地域に、702校92,420人の生徒が修学旅行で訪れた。(対前年：▲144校▲12,267人) どの旅行先方面も、大きく前年を割る結果となった要因として、私立校の修学旅行の実施時期のピークは、秋季(10月～12月)と3月であり、今年度3月実施を予定していたすべての学校が実施を自粛。中止や延期、国内修学旅行に急遽変更されたことが挙げられる。(参考：平成30年度3月修学旅行実施校数：64校104件9,552人)
実施時期の殆どが秋季であったヨーロッパ(イギリス、フランス)は、新型コロナウイルスの影響を受けず予定通り実施され、前年を上回った。



(4) 公私立中学校の状況（参考）

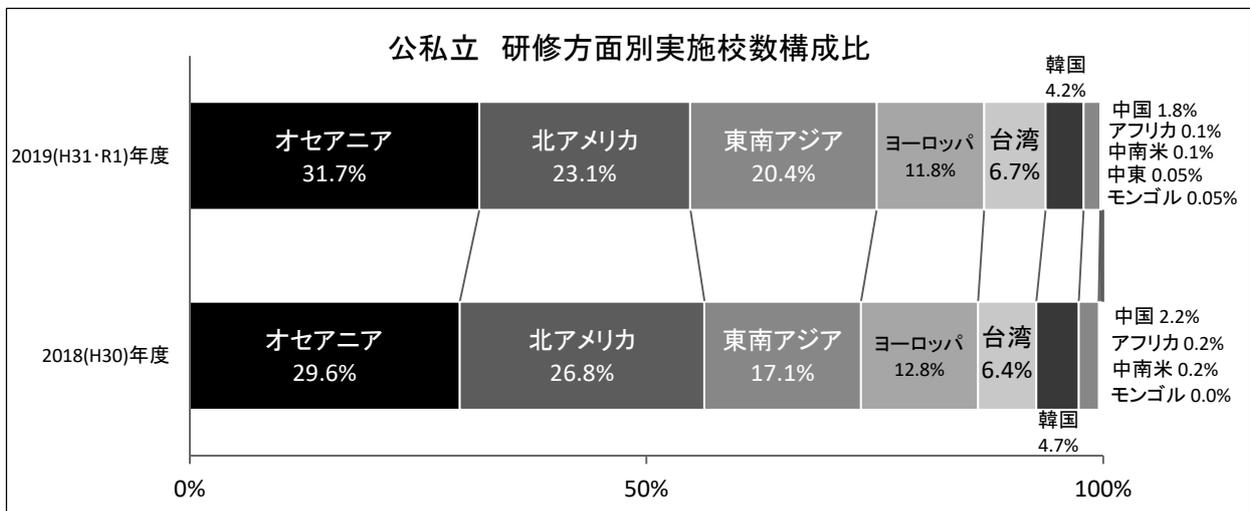
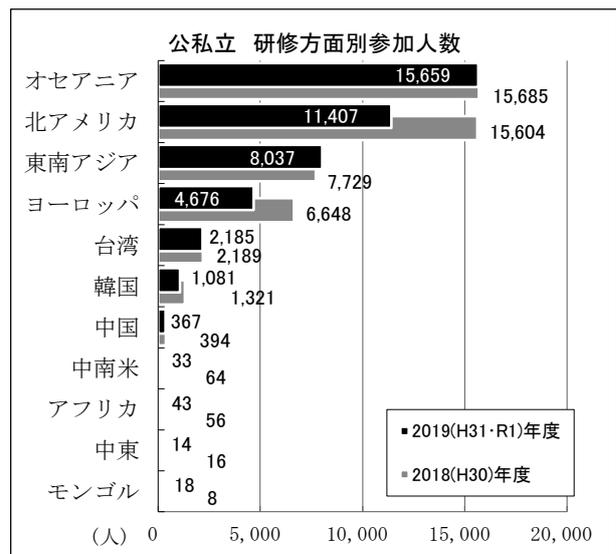
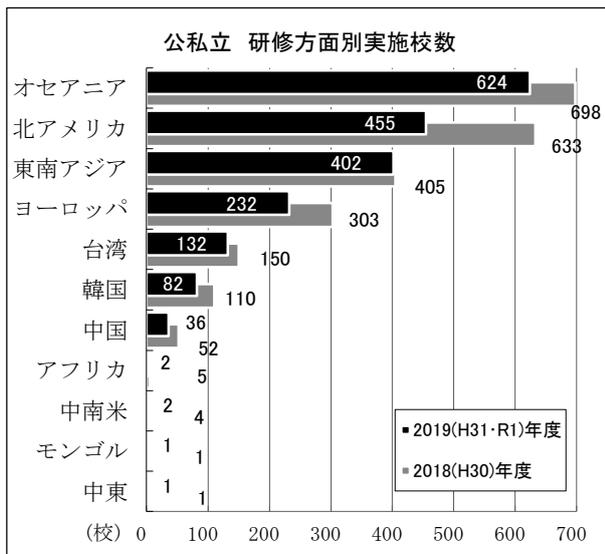
中学校の海外修学旅行は、私立学校を主としており、公立学校は一部府県での実施が見られる。
参考資料として掲載した。

- 140校10,128人(公立17校1,069人、私立123校9,059人)の実施があった。
- 公立中学校は11都府県で実施され、前年度から1校増112人減。福島、群馬、神奈川、高知、沖縄で複数校の実施がみられた。旅行方面は、オーストラリア(7校320人)が最も多く、台湾、シンガポール、マレーシアなど。実施時期が、4月から12月であったことから、新型コロナウイルスの影響を受けずにほぼ実施された。旅行日数は、5日間から8日間が多い。
- 私立中学校は34都道府県で実施され、前年度から、27校1,537人減となった。旅行方面は、オセアニア方面(47校3,950人)が最も多く、全体の約39%と、シンガポール、マレーシアを中心とした東南アジアの28.6%で大半を占める。実施時期は、例年10月、3月が多いが、今年度は3月実施は全て中止・延期となった。昨年度22校1,419人実施された3月の旅行は、本年度は無く、前年度減の殆どを占める。

2. 2019 (平成31・令和元) 年度 海外研修 (修学旅行外) の実施状況

- 実施校は、1,318校(公立691校、私立627校)が実施し、参加生徒数は41,501人(公立14,948人、私立26,553人)であった。件数は2,092件(公立894件、私立1,198件)。
- 研修先(延べ数)では、53ヶ国・地域に1,969校43,520人(公立889校15,642人、私立1,080校27,878人)が参加した。
新型コロナウイルスの影響により、大幅な減少となったが、その殆どが感染拡大が本格化した3月の中止によるものであり、2019年4月から2020年2月までの計は、前年度を上回っており、本来であれば4,000人程度増加の傾向であった。「国際理解教育」は、今後も学校教育のスタンダードあり、このコロナによる世界的な問題も今後の国際教育の一例として活かせることを期待する。
- 研修内容は、「ホームステイ・語学研修」「学校間交流」を通じて、「国際交流・国際理解」に繋げるものが、7~8割を占める。また、「留学」を取り入れる学校も年々増加傾向にある。(1,000人 越えは初めて)

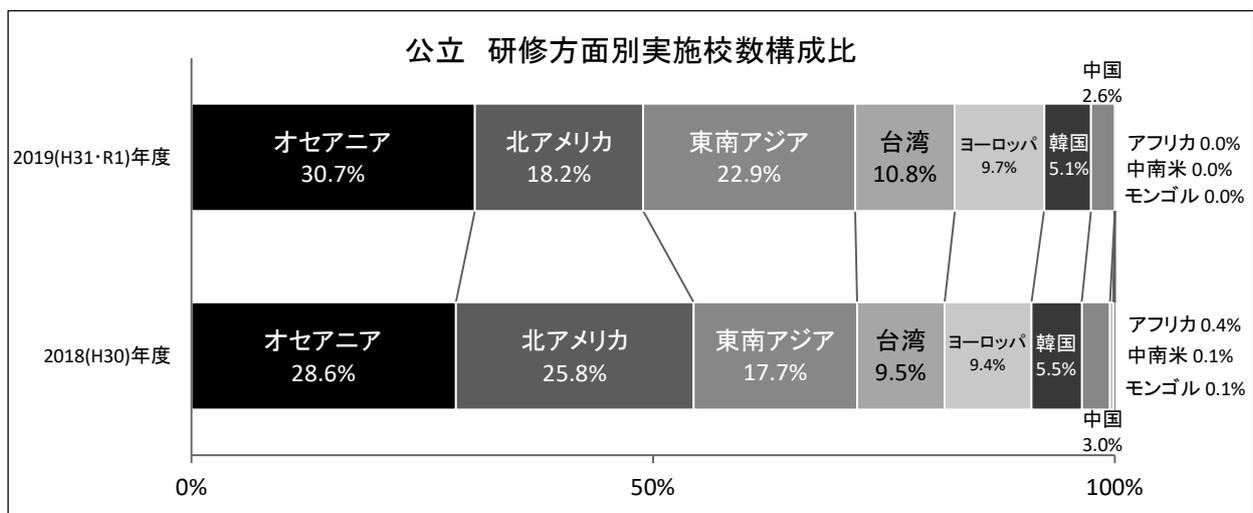
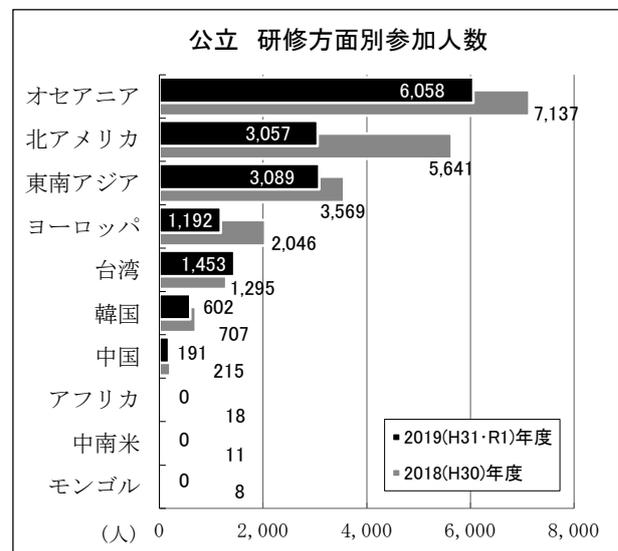
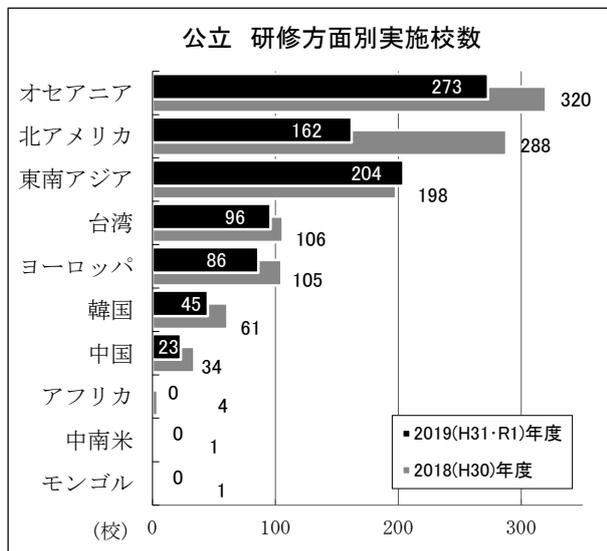
区分	計			公立			私立		
	実施校数	研修件数	参加生徒数	実施校数	研修件数	参加生徒数	実施校数	研修件数	参加生徒数
2017(平成29)年度	1,385	2,263	43,771	775	1,074	18,478	610	1,189	25,293
2018(平成30)年度	1,537	2,509	47,477	837	1,140	19,761	700	1,369	27,716
2019(平成31・令和元)年度	1,318	2,092	41,501	691	894	14,948	627	1,198	26,553



※グラフは延べ数を基に作成。

(1) 公立高等学校

- 実施校は、691校(件数は894件)が実施し、参加生徒数は14,948人であった。
- 研修先(延べ数)では、39ヶ国・地域に889校15,642人が参加した。
 研修方面ではオセアニア(273校6,058人)と、東南アジア(204校3,089人)で過半数を占める。
 前年度、オセアニアに次いで多かった北アメリカは、大半が3月実施であった為、今年度は実施出来ず、2,500人以上の減少となった。
 主要国は、前年同様、オーストラリア(231校5,086人)と、アメリカ本土(104校2,132人)だが、いずれも大幅な減少。一方で、台湾、ベトナム、フィリピンが増加した。
- 研修内容は、「ホームステイ・語学研修」が258校6,206人(校数比28.0%、人数比39.7%)、「国際交流・国際理解」が301校4,943人(校数比32.6%、人数比14.2%)で全体の過半数を占める。別枠で集計しているが、「学校間交流」は、「ホームステイ・語学研修」「国際交流・国際理解」に含まれるケースが多く、現地学生との交流は、言語学習はもちろん、異文化を学び、グローバルな視野を身に付けるための、まさに「国際理解教育」にとって重要な研修である。



※グラフは延べ数を基に作成。

(2) 私立高等学校

- 実施校は、627校(件数は1,198件)が実施し、参加生徒数は26,553人であった。
- 研修先(延べ数)では、42ヶ国・地域に1,080校27,878人が参加した。
 主要方面は、オセアニア(351校9,601人)、北アメリカ(293校8,350人)。公立高校同様、3月に実施が集中している、北アメリカが1,600人強減少した。一方、7、8月実施の多いオセアニアが1,000人強増加したことや、東南アジアのシンガポール、マレーシア、フィリピン、ベトナムなどで900人程増加したことで、全体では1,189人の減少に止まった。
- 研修内容は、「ホームステイ・語学研修」が665校16,557人(校数比54.4%、人数比59.4%)で過半数を占める。「学校間交流」「学科の特性」「留学・短期留学」が増加傾向にある。専門的な分野を学ぶ「学科の特性」は、国々の環境や世界水準の技術に触れ、グローバルな視点や感性を持つ人材の育成にも繋がるものである。

